
マウスエミュレーションソフトウェア

TSC-DD v1.00.31

取扱説明書

株式会社ディ・エム・シー

—目次—

はじめに	2
インストール	3
使い始める前に	10
マウス操作	12
機能設定	12
制限事項	24

この取扱説明書で提供するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することが出来ます。

著作権

Copyright © 2013 DMC Co., Ltd

商標

Microsoft、Windows は Microsoft Corporation の米国に於ける登録商標または商標です。

はじめに

本書には TSC-DD を正しくご使用していただくための情報が記載されています。十分に機能を発揮させていただくため、また予期せぬトラブルを未然に防ぐためにも TSC-DD のインストール前に本書をよくお読みになってください。

A 特徴と機能

TSC-DD は弊社タッチパネルコントローラ TSC シリーズ IC を利用し Windows 上でタッチパネルを操作することによりマウス操作環境を実現する、マウスエミュレーションソフトウェアです。以下に提供する機能とその特徴を示します。

1. タッチパネルを操作することでマウスと同等な操作環境を実現することができます。
2. マウスとの共存が可能のため、特別な設定を行うことなくタッチパネル、マウス双方を切替え使用することが出来ます。
3. タッチパネルコントローラは、シリアル(RS-232C)通信、USB 通信をサポートします。また、複数のタッチパネルを接続した環境もサポートいたします。(最大でシリアル 2 台+USB2 台の合計 4 台までをサポートいたします。)
4. キャリブレーション機能などにより優れた操作性を提供します。

B 表記について

本書では、動作対象 OS、TSC-DD の表示に関して、特定の名称・表示に対しては以下のように表現します。

「****」 アイコン名、ボタン名を表します。例えばフロッピーディスクドライブのアイコンは「3.5 インチ FD(A:)」となります。

〈***〉 キーボード上のキーを表します。例えば Enter キーは〈Enter〉となります。

‘***’ ウィンドウタイトル名を表します。例えば、検出中 と題されたウィンドウは‘検出中’となります。

[***] 上記以外の文字列を表します。例えばスタートメニュー内のプログラムは[プログラム]となります。

Windows 単に Windows と表記の場合は、全ての対応 OS を表します。

本ソフトウェア TSC-DD を表します。

C 動作環境

対応機種 IBM PC/AT 互換機

対応 OS Windows XP※ SP3 (32bit), Windows Vista SP2 (32bit), Windows 7 SP1 (32bit)

※Windows XP でお使いの場合、Microsoft .NET Framework 2.0/3.0/3.5 のいずれか、および日本語 LanguagePack がインストールされている必要があります。

D 注意事項

1. 本ソフトウェアは弊社製タッチパネルコントローラ TSC シリーズ IC のマウスエミュレーションソフトウェアです。他社のタッチパネルコントローラ及びタッチパネルコントローラに類する物は動作対象外となります。
2. 本ソフトウェアの使用方法は本書に従った方法で行ってください。異なる使用方法では動作しない場合があります。
3. 本ソフトウェアは対応機種として明記された機種、OS 以外では動作対象外となります。ただし、明記された機種、OS に関しても全てのシステム環境において動作保証するものではありません。
4. 他のマウスエミュレーションソフトウェア或いは類似の機能を提供するソフトウェアがインストールされた環境では使用しないで下さい。正常に動作しない場合があります。
5. ドライバの読み込みは、インストールプログラムを実行する事により行われます。
インストールプログラム実行以前にドライバを読み込み、タッチパネルを操作することは出来ません。
また、インストールプログラムの 2 重起動は行わないでください。
6. 本ソフトウェア以前のバージョンがすでにインストールされている場合は、必ずそのソフトウェアのアンインストールを行い、再起動後に本ソフトウェアをインストールしてください。上書きインストールでは正常に動作しない場合があります。
7. 拡張されたシリアルポートでは正常に動作しない場合があります。その場合はオンボードのシリアルポートをご使用ください。
8. 本ソフトウェアのインストール最中、アンインストール最中、および本ソフトウェアのインストール後においてコンピュータの起動中にはタッチパネルによる入力を行わないでください。正常に動作しない場合があります。
9. 弊社では本ソフトウェアに起因するいかなるトラブルに関しても一切の責任を負いかねます。従いまして、本ソフトウェアを導入する前にシステムのバックアップをお取りください。

インストール

本ソフトウェアのインストール作業は、タッチパネルコントローラ TSC シリーズ IC がシリアルポート、又は USB どちらに接続するかにかかわらず共通です。

インストール作業

1. コンピュータの電源投入

コンピュータの電源を入れ、Windows を起動してください。

2. インストーラ起動

<ファイル構成>

└ Installer.exe	本ソフトウェアのインストーラ
└ Setup	セットアップディレクトリ
└└ setup.exe	設定ツールセットアップ
└└ TPServiceSetup_x86ja.msi	設定ツールインストーラ

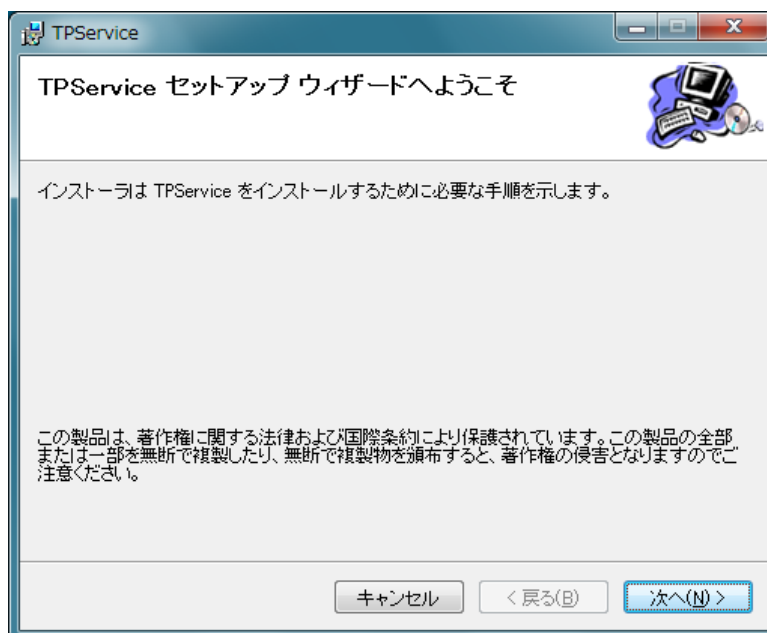
本ソフトウェアのインストーラ「Installer.exe」をダブルクリックするなどして、起動してください。
※その他の実行ファイルを実行しないでください。正常にインストールされない可能性があります。

Windows Vista および Windows 7 へインストールする場合、‘発行元を確認できませんでした。このソフトウェアを実行しますか？’と表示されることがあります。また、‘ユーザーアカウント制御’ウィンドウが表示される場合がございます。インストーラをご自身で実行された場合には「許可」「実行」または「はい」をクリックして頂いて問題ございません。さらに、‘Windows セキュリティ’ウィンドウが表示される場合には、「このドライバソフトウェアをインストールします (I)」をクリックしてください。

「Installer.exe」を実行すると以下の画面が立ち上がります。

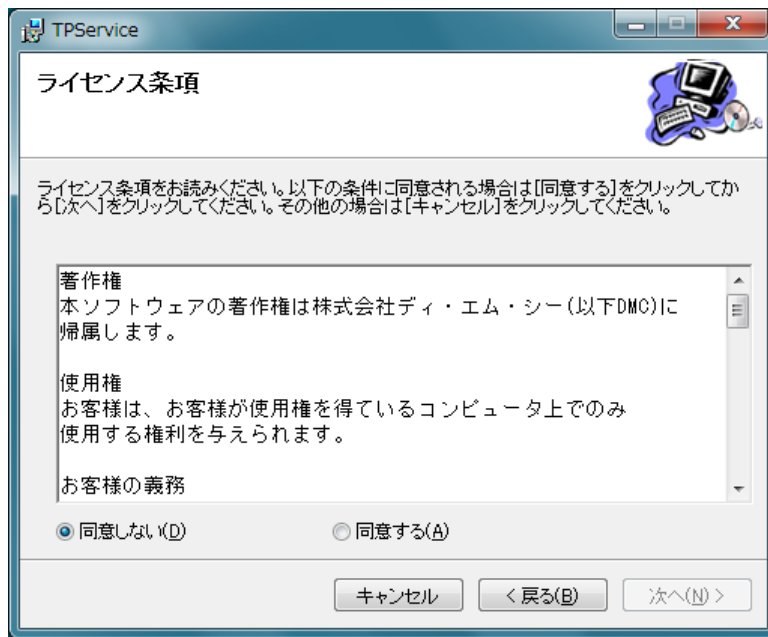
USB コントローラを使用する場合、インストール前にコントローラを接続しないでください。正しく動作しない可能性がございます。インストール完了後、接続するようにしてください。

3. インストーラ実行時のウィンドウ



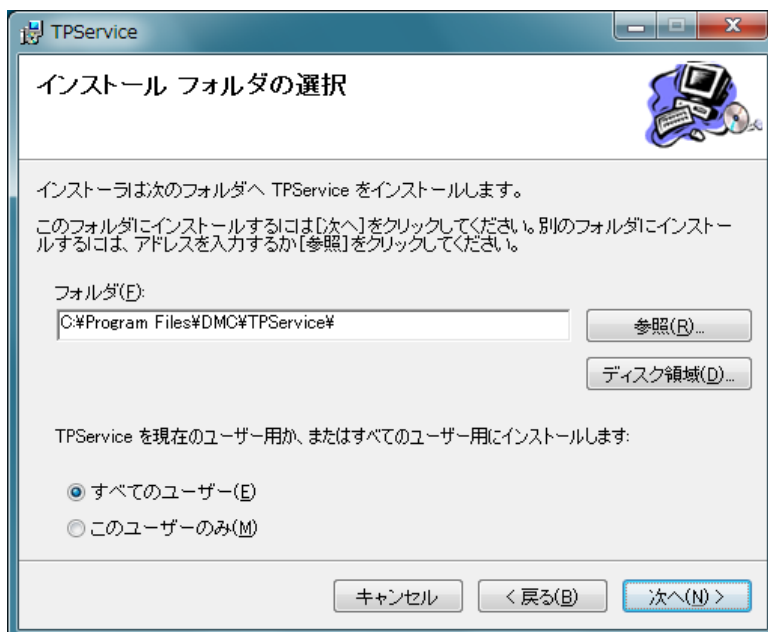
「次へ」をクリックしてください。

4. ライセンス条項



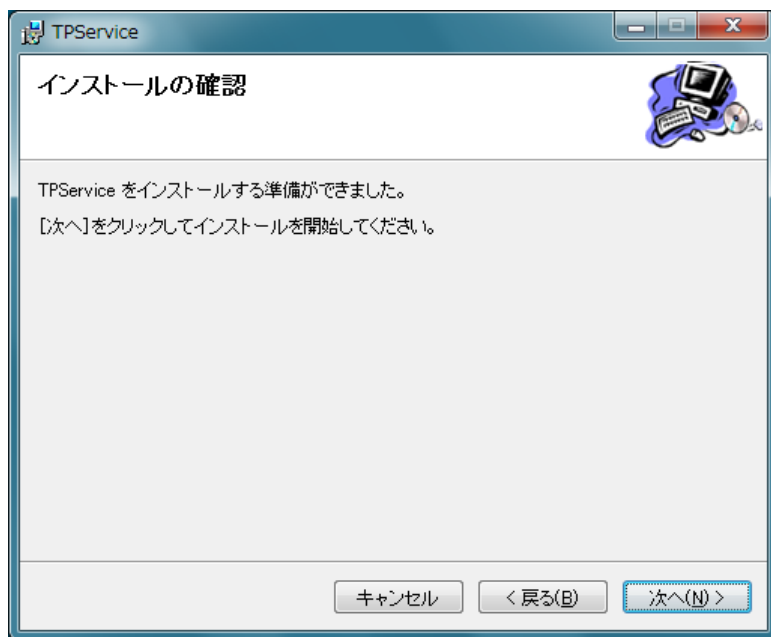
「同意する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

5. インストールフォルダの選択



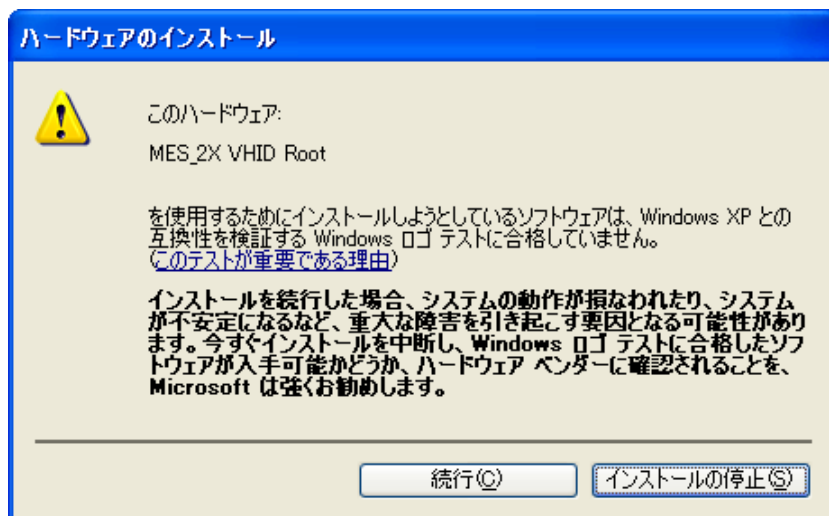
変更する必要が無い場合は「次へ」をクリックしてください。もしくは、任意に変更後、「次へ」をクリックしてください。

6. インストールの確認



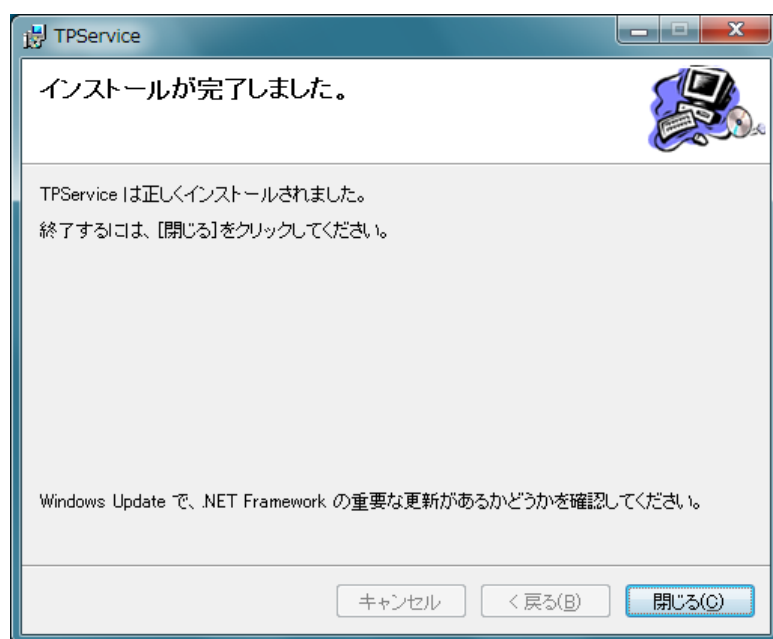
インストールの準備ができました。「次へ」をクリックしてください。

7. ハードウェアのインストール (XP)



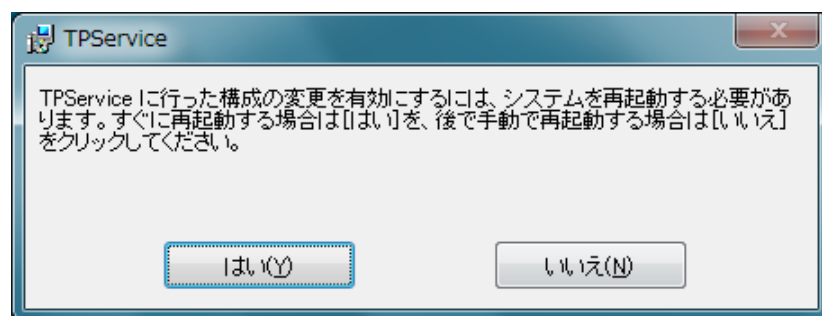
「続行」をクリックしてください。

8. インストール完了



インストールが正常に完了しました。「閉じる」をクリックしてください。

9. 再起動



すぐに再起動する場合は「はい」をクリックしてコンピュータを再起動してください。

後で再起動する場合には「いいえ」をクリックしてください。

(注意)再起動しないとタッチパネルは動作しません。必ず再起動してください。

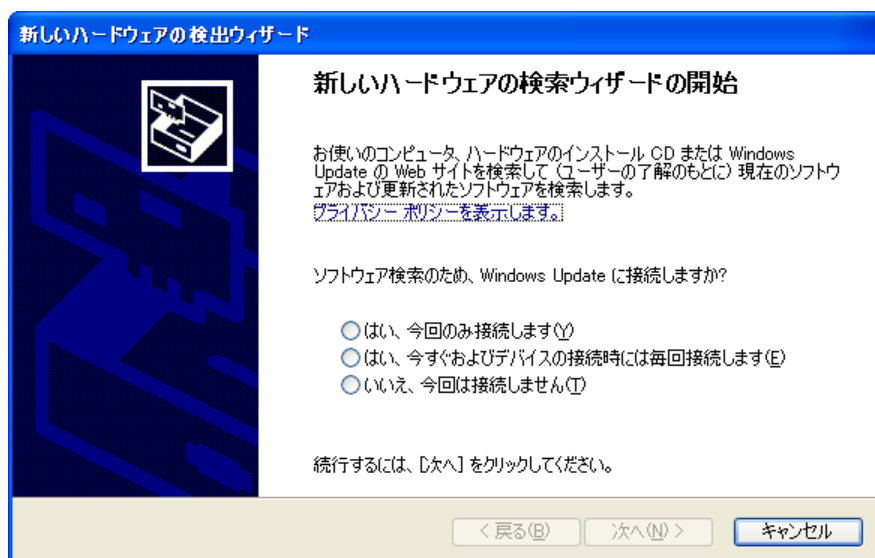
10. コントローラの接続

コンピュータの再起動後、タッチパネルコントローラを接続してください。

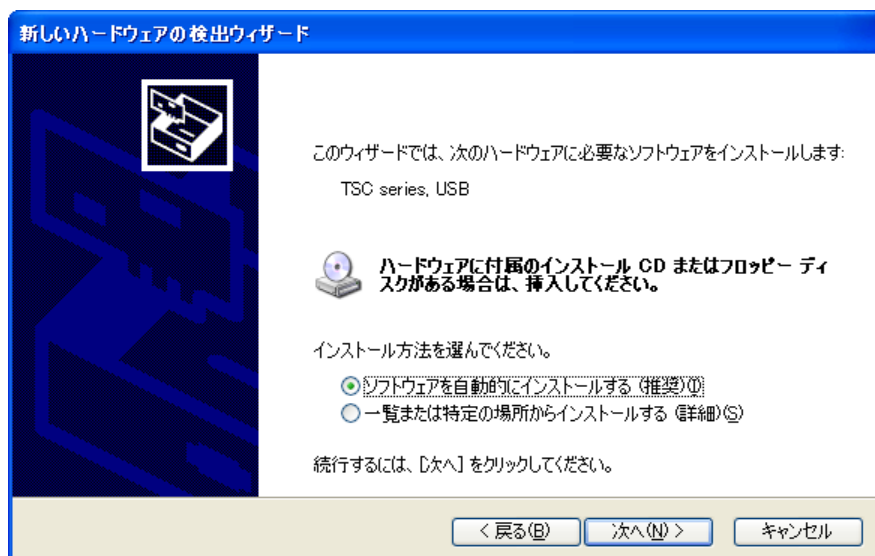
<USB コントローラを使用する場合>

USB ケーブルをコンピュータの USB ポートへ接続してください。

以下のウィンドウが表示された場合、手順に沿って進めてください。



「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックしてください。



「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し、「次へ」をクリックしてください。



インストールの完了です。「完了」をクリックしてください。

<シリアルコントローラを使用する場合>

設定ツールより「シリアルデバイスの追加」を行ってください。そして、デバイス項目で使用する COM ポートを設定してください。詳細は本書の機能設定の項目を参照ください。

設定ツールの起動方法

[スタート]→[すべてのプログラム]→[DMC]→[DMC タッチパネル設定ツール]をクリックします。

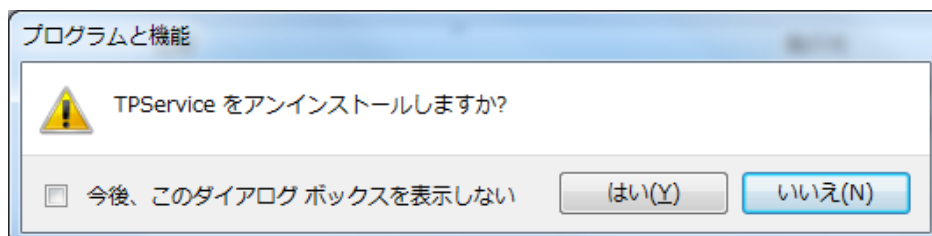
アンインストール作業

本ソフトウェアをアンインストールするには「コントロールパネル」にある「プログラムのアンインストール」※を実行し、「TPService」を選択してアンインストールを実行してください。

※お使いの OS により文言が違う場合がございます。

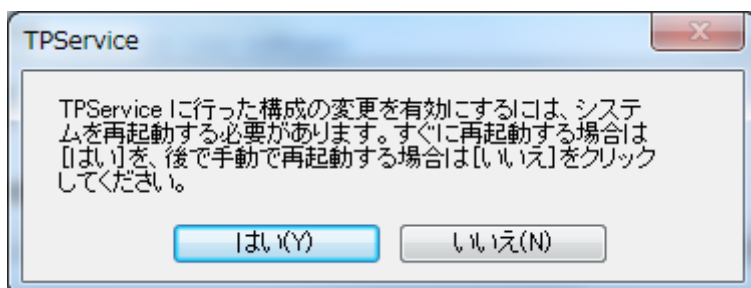
※USB コントローラをお使いの場合、アンインストールを行う前に USB コントローラをコンピュータから外してください。

アンインストールを実行すると以下のウィンドウが表示されます。



「はい」をクリックしてください。

アンインストールが完了すると、以下のウィンドウが表示されます。



すぐに再起動する場合には「はい」をクリックしてください。

後で手動で再起動する場合には「いいえ」をクリックしてください。

(注意) アンインストールを反映させるためには必ず再起動する必要があります。

(注意) アンインストール後、インストールフォルダ (通常 C:\Program Files\DMC\TPService*) にキャリブレーションログファイルが残っている場合があります。再起動後、手動で削除してください。

使い始める前に

キャリブレーション

タッチパネルは、使い始める前にキャリブレーションを行わなければなりません。キャリブレーションとは、タッチパネル上にタッチ入力した位置と、Windows のカーソル位置を合わせるために行う非常に大切な操作で、この作業を行うことによってタッチパネルを違和感無く操作できるようになります。

＜EEPROM キャリブレーション機能を使用しない場合＞

一度キャリブレーションを行えばキャリブレーションデータは Windows に記憶される為、以後、Windows を起動するたびに本操作を行う必要はありません。

キャリブレーションを行うには、以下の手順を行ってください。

[スタート]→[すべてのプログラム]→[DMC]→[DMC タッチパネル設定ツール]を選択し、設定ツールを起動します。

※設定ツール起動時、'ユーザーアカウント制御' ウィンドウが表示されます。「はい(Y)」をクリックしてください。

設定ツール内にある「キャリブレーション」ボタンをクリックしてください。

設定ツール画面



※設定ツールを介さず、他のアプリケーションからキャリブレーションを実行したい場合は下記を実行してください。
キャリブレーションツール(exe)は、インストールフォルダ内(通常 C:\Program Files\DMC\TPService\に保存してあります
Calibrator.exe というプログラムになります。

そして、以下の引数を全て指定して実行してください。

/DEV:[USB|Serial]

デバイスタイプ(USB or Serial)を指定します。

/ID:x

設定ツールのデバイスリストに表示されている、

“USB コントローラーx”または、“シリアルコントローラーx (COM~)”の

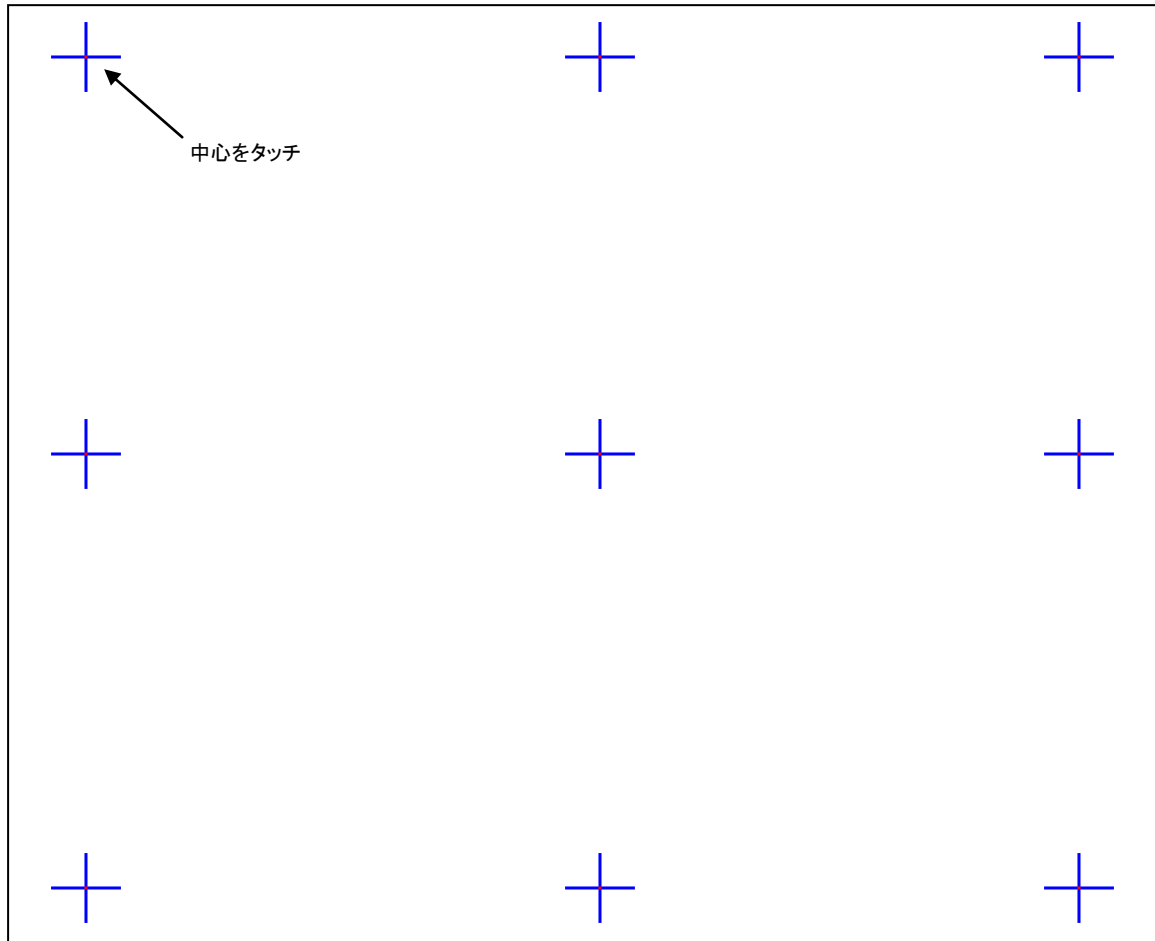
x の値を指定します。

例) “シリアルコントローラー2 (COM5)”をキャリブレーションする場合

>Calibrator.exe /DEV:Serial /ID:2

キャリブレーションスクリーン

- ※ 説明のため全ポイントを表示しておりますが、実際にはターゲットポイントは1箇所ずつ表示され、1 箇所タッチしたらターゲットが赤色に変わり、次のターゲットポイントが表示されます。
- ※ 9 ポイントの例です。



全てのキャリブレーションポイントの入力を終わると「OK」および「キャンセル」ボタンが現われます。入力が問題なく行えた場合は「OK」ボタンをクリックします。キャリブレーションポイント以外を間違えて押してしまった場合は「キャンセル」をクリックするか、Esc キーを押すか、そのまま何もせず 15 秒間*1 待ってください。15 秒経過すると、行ったキャリブレーションデータは破棄され、Windows には保存されません。

*1 15 秒はデフォルトの数値です。この値は変更できます。

キャリブレーションを実行するとインストールフォルダ内 (通常 C:\Program Files\DMC\TPService\) にログ情報が出力されます。(ファイル名はキャリブレーション実行時の日時: Calyyyyymmddhhmmss.txt)

＜EEPROM キャリブレーション機能を使用する場合＞

設定ツールのデバイス項目にある「EEPROM 有効」のチェックボックスをオンにすると EEPROM キャリブレーション機能が有効になります。キャリブレーションを行う動作は上記の＜EEPROM キャリブレーション機能を使用しない場合＞と同様ですが、キャリブレーションデータの保存場所が EEPROM になります。

(注意) コントローラに EEPROM が実装されている必要があります。

タッチパネルは、経年変化により導入時と比較し、座標がずれることがあります。その場合は、再度キャリブレーションを行うことを推奨します。

マウス操作

A. クリック、ドラッグ操作

マウスのクリック、ダブルクリック及びドラッグなどの基本操作は、タッチパネルでは次のように行います。

クリック: タッチパネルをタッチし、離します。

ダブルクリック: タッチパネルを素早く2回タッチします。

ドラッグ: アイコン、ウィンドウのタイトルバーをタッチし、タッチしたまま指(或いはペン)を移動させます。

B. 右クリック操作

タッチパネルでは、マウスのように2つのボタンはありませんのでタッチパネルで右ボタン操作を行いたい場合は次のように操作します。

[スタート]→[すべてのプログラム]→[DMC]→[DMC タッチパネル設定ツール]を選択し、設定ツールを起動します。

[詳細設定]項目にある、[右クリック有効]のチェックボックスをクリックして有効にし、適用ボタンをクリックしてください。

[時間]で設定している期間、タッチした状態を保持することで右クリック動作をいたします。(指、ペンを離れた時に右クリック動作いたします。)

右クリック動作は、タッチしている場所により変わりますが、マウス操作時と同等です。

機能設定

本ソフトウェアは、標準の設定では通常のマウス操作環境と同様な環境を提供しますが、柔軟なカスタマイズ機能を利用することにより、特定用途にあわせた操作環境を容易に作り出すことができます。

動作設定画面起動

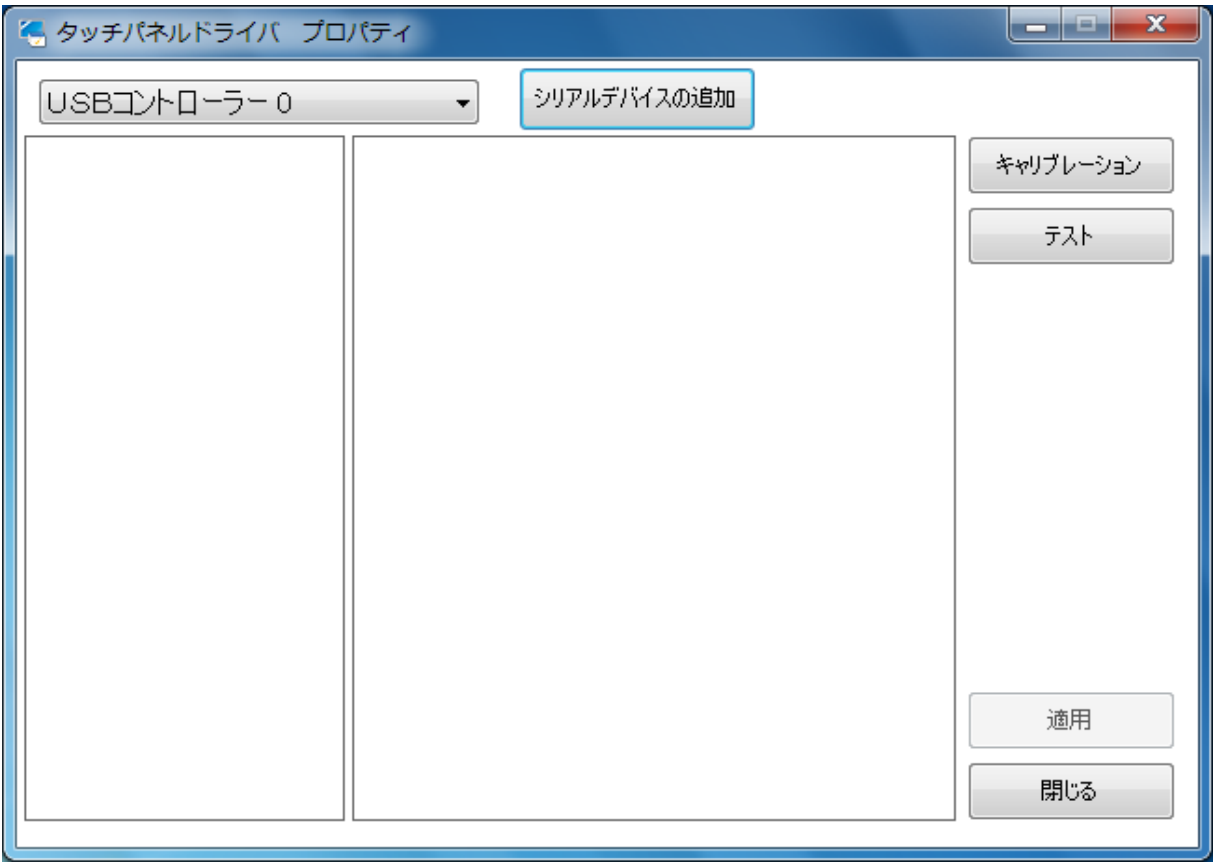
下記の方法で設定ツールを起動します。

[スタート]→[すべてのプログラム]→[DMC]→[DMC タッチパネル設定ツール]を選択、起動します。

‘タッチパネルドライバ プロパティ’ウィンドウが現われ、画面はいくつかの項目によって分けられています。この項目は設定目的別に分けられており、コントローラの追加は[ハードウェア]、コントローラの状態確認は[状態]、キャリブレーションに関する内容は[キャリブレーション]というように、行いたい内容ごとに一つの画面にまとめられています。

次ページより各項目ごとの詳細を説明いたします。

共通項目

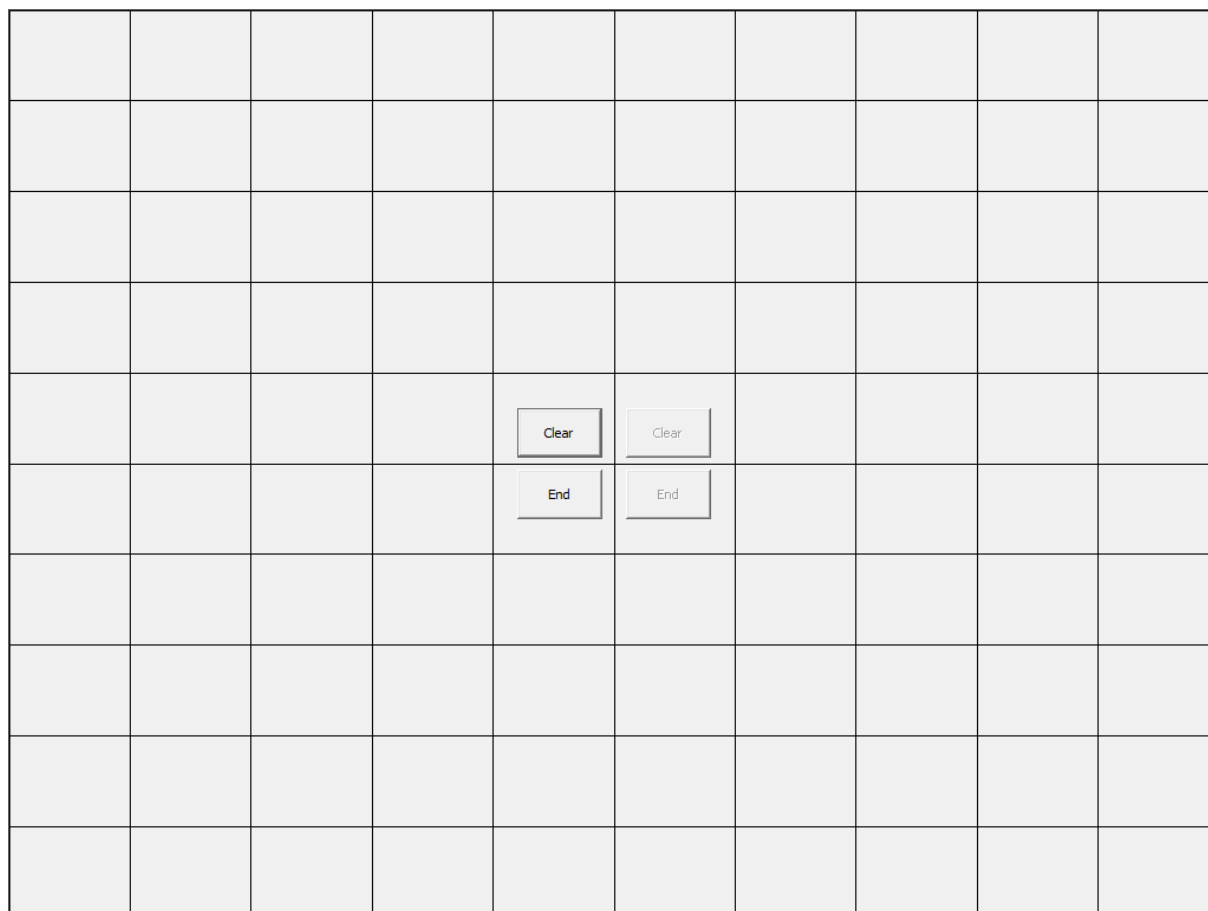


項目	説明
<div>USBコントローラー0</div>	<p>設定変更やキャリブレーションを実行する対象のデバイス名を表示します。</p> <p>対象を変えたい場合は右側のプルダウンより選択します。</p>
<div>シリアルデバイスの追加</div>	<p>シリアルコントローラを追加する場合に使用します。</p> <p>本ソフトウェアのインストールを行い、コンピュータの再起動後に本ボタンにより追加を行ってください。</p>
<div>キャリブレーション</div>	<p>キャリブレーションを実行するためのボタンです。</p> <p>クリックすることでキャリブレーションスクリーンが表示されます。</p> <p>上部に表示されているデバイスが対象となります。</p>
<div>テスト</div>	<p>テストを実行するためのボタンです。</p> <p>クリックするとテスト画面が表示されます。</p>
<div>適用</div>	<p>設定変更を行なった後に、この適用ボタンをクリックすることで変更内容が反映されます。</p> <p>このボタンをクリックする前はまだ変更内容が反映されていません。</p> <p><i>注意</i> 設定変更した際は、適用を行わないとキャリブレーションを実行することができません。</p>

閉じる

タッチパネルドライバプロパティ(本設定ツール)を閉じます。

テストスクリーン

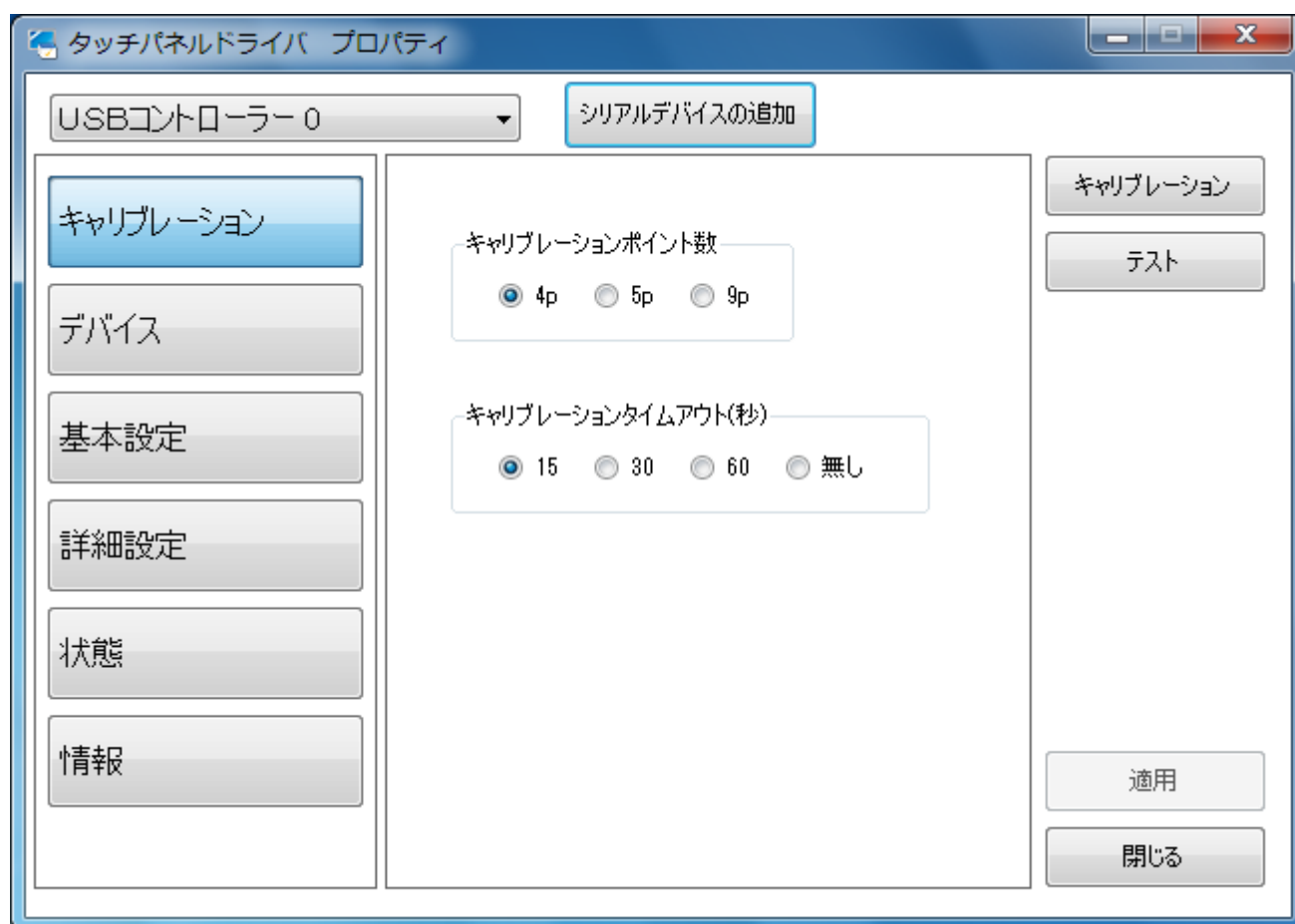


描写を消したい場合は、Clear ボタンを左⇒右の順でクリックしてください。

テストを終了したい場合は、End ボタンを左⇒右の順でクリックしてください。

キャリブレーション

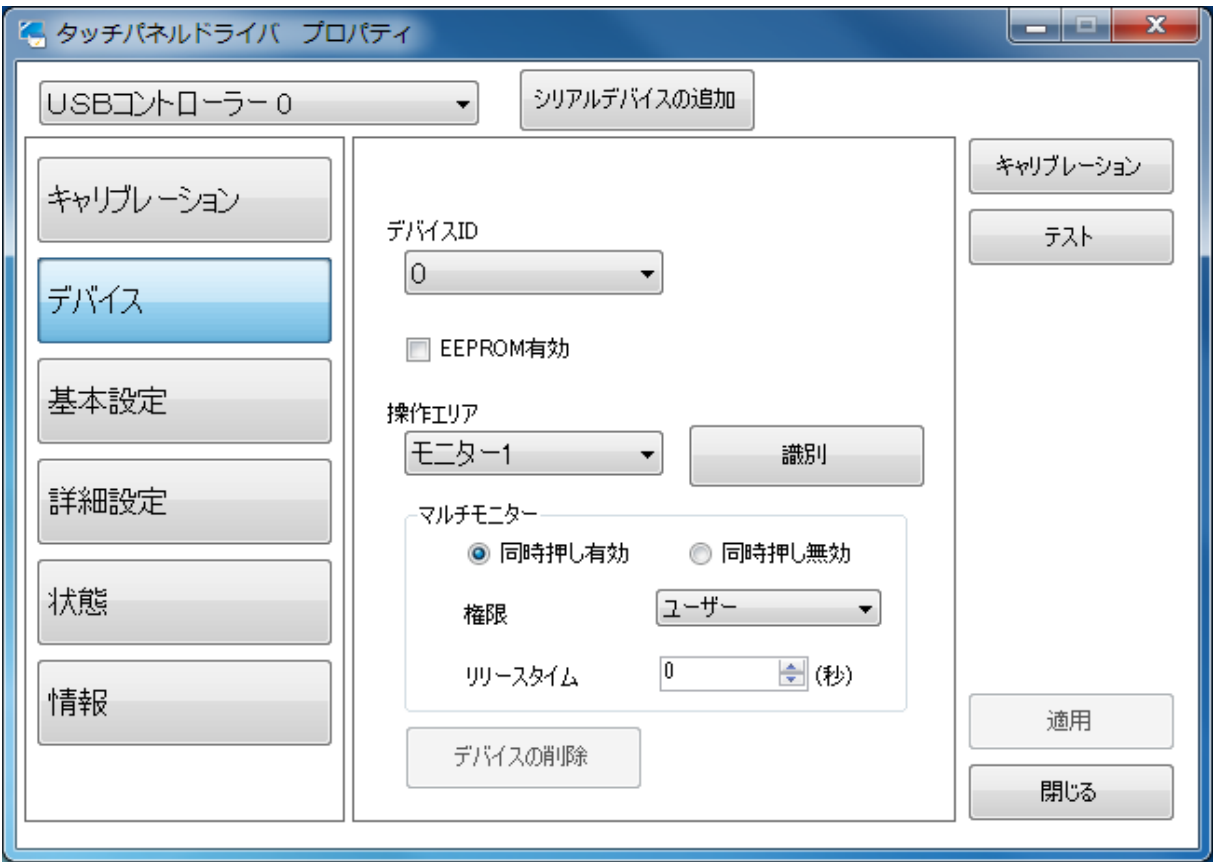
キャリブレーションに関する設定を行います。



項目	説明
<p>キャリブレーションポイント数</p> <p><input checked="" type="radio"/> 4p <input type="radio"/> 5p <input type="radio"/> 9p</p>	<p>キャリブレーション時のポイント数が表示されています。表示されているポイント数を選択することでキャリブレーション時のポイント数を変更することができます。初期値は 4 ポイントに設定されています。</p> <p>4 ポイントでキャリブレーションしてもタッチ位置とカーソル位置が合わない場合には、ポイント数を増やしてください。目安として、15 インチ以上のサイズの場合には 9 ポイントでキャリブレーションを実行すると位置精度が上がります。</p> <p>注意 キャリブレーションポイントを変更した場合には、適用後、再度キャリブレーションを実施してください。</p>
<p>キャリブレーションタイムアウト(秒)</p> <p><input checked="" type="radio"/> 15 <input type="radio"/> 30 <input type="radio"/> 60 <input type="radio"/> 無し</p>	<p>キャリブレーション実行時、何も操作を行なわないとキャリブレーションが終了するタイムアウト時間を設定します。</p> <p>単位は秒です。</p> <p>「無し」は、タイムアウト無しを意味します。</p>

デバイス

「デバイス」では、各デバイスの個別設定や任意の操作エリアと関連付けることができます。



項目	説明
デバイスID <div>0</div>	<p>USB コントローラ時に使用します。</p> <p>USB コントローラ1つのみで使用する場合には、本設定は使用しませんので、変更する必要はございません。</p> <p>USB コントローラを2つ接続して使用する場合（マルチタッチパネル環境）、それぞれを異なるデバイス ID に設定する必要があります。例えば、一方を 0 に設定している場合（初期値）、他方は 0 以外の値に設定する必要があります。</p> <p>デバイス ID 情報はタッチパネルコントローラに接続された EEPROM に保存されますので、EEPROM が必須です。</p>
接続ポート <div>COM1</div>	<p>シリアルコントローラ時に使用します。</p> <p>シリアルコントローラを接続する COM ポート番号を指定してください。</p>
<input checked="" type="radio"/> 同時押し有効 <input type="radio"/> 同時押し無効	<p>マルチタッチパネル環境で使用する場合に、2 画面を同時に押した際、“同時押し有効”の場合は 2 画面交互にカーソルが移動します。</p> <p>“同時押し無効”の場合は、最初にタッチした方のみが有効となります。</p>

<input type="checkbox"/> EEPROM有効	<p>キャリブレーションデータを EEPROM に保存したい場合には、本項目にチェックしてください。</p> <p>初期値はオフで、キャリブレーションデータは Windows に保存されます。</p> <p>タッチパネルコントローラの仕様により、タッチパネルが正方向（図面に示されている方向）と逆向きに設置している場合、EEPROM 有効で使用すると正確な位置情報が得られない場合があります。</p>
<p>操作エリア</p> <div> <div>モニター1</div> <div>▼</div> </div>	<p>選択されているデバイスによって操作する操作エリアを表示します。通常はモニター1 が選択されています。</p> <p>マルチモニター環境で使用する場合に、特定のモニターに関連付けることができます。下記の「識別」で表示されたディスプレイ番号を設定してください。</p> <p><i>注意</i> 操作エリアを変更した場合には、再度キャリブレーションを実行する必要があります。</p> <p><i>注意</i> マルチモニター環境を構築するために、コンピュータの起動後に新しいモニターを追加した場合、タッチパネルドライバがモニター情報を正常に入手できませんので、一度ログオフしてから再度ログインしてください。もしくは、コンピュータの起動前にモニターを接続してから起動してください。</p>
<div>識別</div>	<p>マルチモニター環境で使用する場合に、モニター番号を表示することができます。本ボタンにより表示されたモニター番号を操作エリアとして指定してください。</p> <p><i>注意</i> Windows のモニター番号と一致しない場合もありますが、本機能に表示されたモニター番号を操作エリアとして指定してください。</p>
<p>マルチモニター</p> <div> <div>権限</div> <div>ユーザー</div> <div>▼</div> </div> <div> <div>リリースタイム</div> <div>0</div> <div>↑</div> <div>↓</div> <div>(秒)</div> </div>	<p>マルチタッチパネル環境で使用する時、それぞれのデバイスに対して優先権を与えることができます。</p> <p>権限[ユーザー]:</p> <p>他にタッチパネルを使っているユーザーがいない場合、いつでも操作が行える権限です。他に使っているユーザーがいる場合、他のユーザーが[リリースタイム]で設定された時間経過後にタッチパネルを使用することができます。</p> <p>権限[アドミン]:</p> <p>いつでも操作が行える権限です。他のユーザーがタッチパネルを使用中でも割り込むことができます。[リリースタイム]に依存しません。</p> <p>リリースタイム:</p> <p>操作終了後（タッチパネル入力終了後）、タッチパネルの使用権を放棄するまでの時間設定です。</p>
<div>デバイスの削除</div>	<p>現在のデバイスを削除することができます。</p>

基本設定

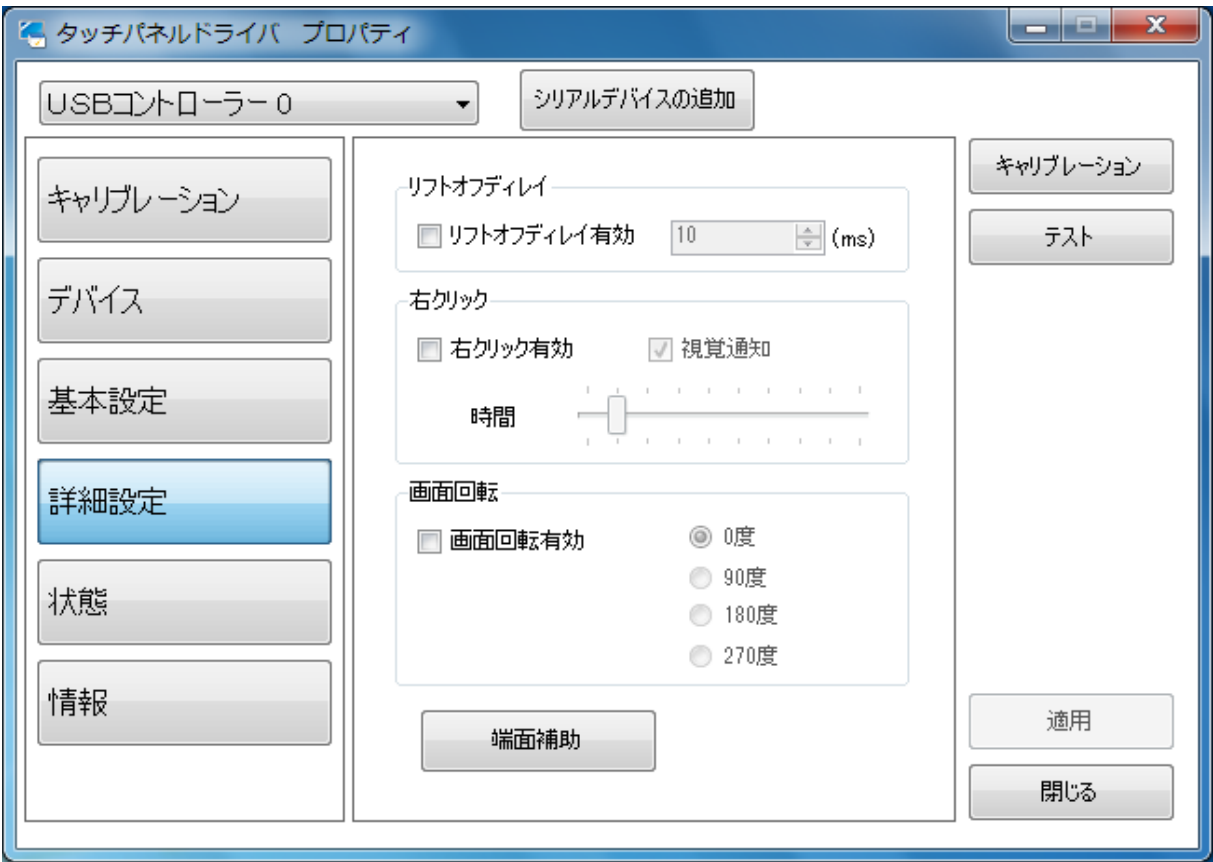
「基本設定」では、タッチパネルの有効/無効やタッチ音の設定を行うことができます。



項目	説明
<input checked="" type="checkbox"/> タッチパネル有効	チェックがオンの状態でタッチパネルを操作することができます。 ドライバを無効にしたい場合は、チェックをオフにします。オフにするとタッチパネルコントローラが使っているポートが開放されます。従って、この機能を使うことによりドライバをアンインストールせずにリソースを開放することができます。
<div>Beep<div><input checked="" type="checkbox"/> ビープ音<div>ビープ音の高さ1000 (Hz)</div><div>ビープ音の長さ55 (ms)</div></div></div>	チェックがオンの状態でタッチ時のビープ音が鳴るようになります。 ビープ音を無しにしたい場合はチェックをオフにします。 ビープ音の高さ/ビープ音の長さ この機能は「ビープ音」がオンの時のみ変更可能となります。
<div>ダブルクリック<div>ダブルクリックの範囲15 (pixel)</div><div>OSマウス設定画面</div></div>	ダブルクリックとみなすタッチの範囲の値を変更することができます。あまり小さい値を設定するとダブルクリックが入り難くなります。 「OS マウス設定画面」をクリックすると、Windows のマウス設定画面が表示されます。

詳細設定

「詳細設定」では、右クリックなどの設定を行うことができます。



項目	説明
<div>リフトオフディレイ</div> <div><input type="checkbox"/> リフトオフディレイ有効 10 (ms)</div>	<p>オンにした場合、タッチしている指(ペン)を離れた時、設定した時間後に離れたとみなします。</p> <p>文字入力するときはチェックをオンにして任意の時間設定をしてください。</p>
<div>右クリック</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 右クリック有効 <input checked="" type="checkbox"/> 視覚通知</div> <div>時間</div>	<p>[右クリック有効]をオンすることで、タッチしたまま静止状態を保つと右クリック操作を行うことができます。</p> <p>[視覚通知]をオンすることで、右クリックまでの時間を視覚的に示します。</p> <p>[時間]で、右クリックまでの保持時間を設定します。0.5 秒刻みです。</p> <p>マルチタッチパネルで使用している場合でも、本機能は共通の設定となっております。</p>
<div>画面回転</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 画面回転有効</div> <div><input checked="" type="radio"/> 0度 <input type="radio"/> 90度 <input type="radio"/> 180度 <input type="radio"/> 270度</div>	<p>画面を回転させてタッチパネルを操作する場合に使用します。</p> <p>[画面回転有効]をオンすることで、画面の回転角度を指定できるようになります。画面を回転することと、本設定を行う順番はどちらが先でもかまいません。実際の画面回転角度と同じ角度を指定してください。</p> <p>注意 画面回転を有効にした場合、再度キャリブレーションを実行してください。</p>

端面補助

端面補助

範囲と移動量を設定してください。

	範囲(%)	移動量(%)
上	0	0
下	0	0
左	0	0
右	0	0

OK キャンセル

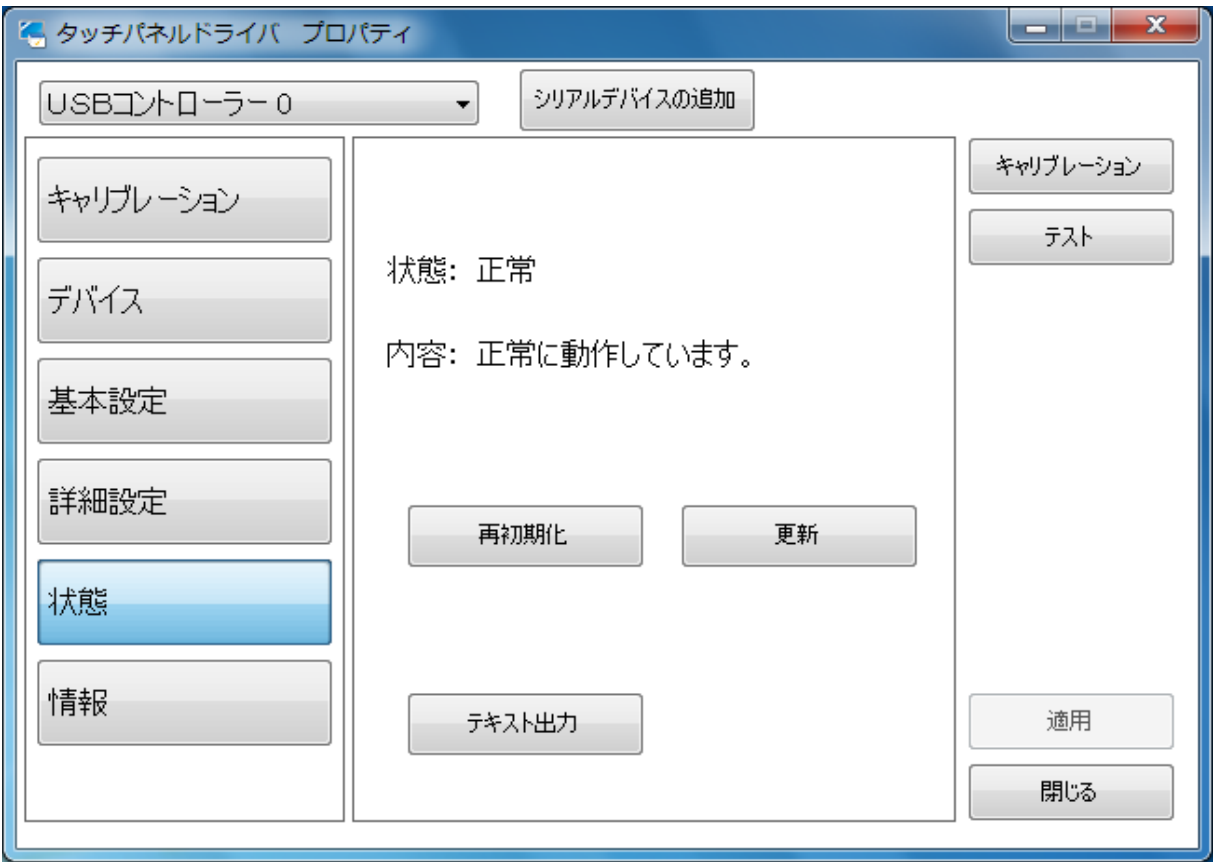
カーソルが画面の端面に近づくとき、カーソルの移動量を増加させることができます。例えば、タスクバーを自動的に隠している設定にしている時に、タスクバーを表示させるためにカーソルを移動させる場合に効果的です。

例えば、画面下辺にタスクバーがある場合、[下]の項目で [範囲(%)]=10、[移動量(%)]=20 を目安に設定するとタスクバーを表示しやすくなります。

お使いの環境に合わせて微調整してください。

状態

「状態」では、現在の状態の確認や、コントローラの再初期化などを行うことができます。



項目	説明
状態: 正常	コントローラの接続状態を表示します。 正常: 正常に通信できる状態です。 不明: ドライバファイルがロードされていない可能性があります。 失敗: コントローラから NAK の応答があった場合に表示されます。 未接続: コントローラが未接続時に表示されます。 無効: 「タッチパネル有効」がオフの場合に表示されます。 エラー: ドライバ内部でエラーが発生している場合に表示されます。
内容: 正常に動作しています。	ドライバの現在の動作状態を表示します。
再初期化	コントローラを再初期化します。Windows 起動後にシリアルコントローラの接続を行った場合、再初期化を実行してください。
更新	「再初期化」後に「状態」と「内容」の表示内容を更新いたします。

テキスト出力

現在の設定情報をテキストファイルで出力します。

そのファイルはサポート目的に使用いたします。

また、同じ設定を再度インストールしたい場合などにも利用できます。本ボタンをクリック後、作成されたファイルを「DefaultSettings.ini」という名前に変更してください。

(拡張子を txt から ini に変更する必要があります。)

さらに、本ソフトウェアの「Setup」フォルダ内に先ほどの DefaultSettings.ini ファイルを置いてください。

<ファイル構成>

└ Installer.exe	本ソフトウェアのインストーラ
└ Setup	セットアップディレクトリ
└┐ setup.exe	設定ツールセットアップ
└┐ TPServiceSetup_x86ja.msi	設定ツールインストーラ
└┐ DefaultSettings.ini	設定情報ファイル

この状態で Installer.exe を実行すると、DefaultSettings.ini ファイルが適用され、DefaultSettings.ini ファイルを作成した時と同じ設定でインストールされます。キャリブレーションデータも含まれます (EEPROM データは除く)。

同じ環境を複数用意する場合などにも利用できます。

情報

「情報」では、使用しているドライバのバージョンなどの情報が表示されます。

(下図はサンプル)



項目	説明
ドライババージョン:	現在使用しているドライバファイルのバージョンを表示しています。
ビルドID:	ビルド ID (TSC-DD のバージョン情報) を表示しています。
<div>ライセンス</div>	ドライバのライセンスが表示されます。

制限事項

- ・ 本ソフトウェアがすでにインストールされている環境で、再度 Installer.exe（本ソフトウェアのインストーラー）を実行するとセットアップウィザードで「TPService の修復」、「TPService の削除」の選択を行うことができますが、「TPService の修復」には対応しておりませんので選択しないでください。

マウスエミュレーションソフトウェア

TSC-DD v1.00.31 取扱説明書

2013 年 12 月 16 日 発行

©2013 DMC Co., Ltd.

本書の再配布を認めますが、本書の改変を禁止します。

株式会社ディ・エム・シー

<http://www.dmccoltd.com/>

〒108-0074 東京都港区高輪 2-18-10 高輪泉岳寺駅前ビル 11F

Phone 03-6721-6731 Fax 03-6721-6732